ぼくのノオト

⑱命どう宝

双葉町の当時十一歳の少女が、原発事故直後に百ミリシーベルトの甲状腺被ばくを受けていたことが判った。

全国紙や東京の新聞は、重大問題として取り上げたが、福島の地方紙ではベタ記事にもならなかった。その少女が氷山の一角であることは、おおよその想像がつく。十九歳となった彼女が、今どうしているのか、健康で元気であってほしい。

千年よりもはるか昔、都が奈良にあった頃、東北地方蝦夷の民を卑しき獣と断ずる朝廷・陸奥の守の横暴に対し、蝦夷伊治の鮮麻呂は刃向かった。謀反人として末代まで名が汚れるのを覚悟しての決起であった。鮮麻呂の志を継ぐ東北の燿星アテルイは、凛として言った。「どうせ蝦夷に名などない」（高橋克彦著『風の陣』より）。

人の命より優先されるものとは、いったい何なのか。国や県だけでなく、メディアにも問いたい。その命には、ひとつの名がある。夢も持っているし、恋もする。それこそが、宝ではないか。

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室
たらちねクリニック
院長　藤田 操
MRLF
〒971-8162 福島県いわき市小名浜花畑町11-3 カネマンビル3階 Tel.0246-38-8031 診療科目 内科・小児科／診療時間 午前9時～12時・午後2時～5時（受付は30分前）／土・日・祝日休診